

「先入観との戦い」 — 島根だからこそ解ること、学べること —

講師：映画監督・脚本家 錦織 良成 氏

【講師からのメッセージ】

映画の仕事は、一般的な仕事と違うのでは、と思う皆さんもいるかもしれません。しかし映画ほど人々の日常と密接なものはありません。映画は森羅万象、あらゆることが題材にできます。役割も多岐に渡ります。実は、日本の映画界は世界から見たら特殊で、ガラパゴス状態ともいえます。一般的には、私が島根を舞台にした映画を撮っているのは出身だから、と思われがちです。間違っていないですが、一番の理由ではありません。もちろん観光促進のためでもありません。世間はそういった枠にはめようとしています。その方が解りやすいと思うからでしょうが、それが落とし穴。逆に本質は解りにくくなってしまいます。中米ハイチでのロケで島根を思い出し、以来いかにこれまで物事を先入観で見えてきたのか、思い込みで判断してきてしまったのか思い知らされながら映画作りをしてきたことなど、話したいと思っています。



11月末から公開の最新作「高津川」は現時点での思いを集約して撮りました。関東キー局の報道番組の中枢に携わる友人たちが試写を観てくれましたが、映画「高津川」は今の時代、随分尖がった作品、という声が上がりました。号泣するマスコミのエリートたちの姿を目の当たりにし、益々多くの世代に、この思いを伝えなければと思います。講義の日までに観る事が出来る人は是非映画館で観ておいてくれると嬉しいです。話しが理解しやすいかと思えます。12月4日、講義に参ります。皆さんにお会いするのを楽しみにしています。

【講師紹介】

島根県出雲市出身。原作物の映画化が多い中、オリジナルの企画・脚本にこだわる数少ない映画監督の一人で、何気ない日常を捉える描写力と柔らかな映像センスに定評がある。初めて故郷を舞台にした2002年公開の『白い船』以来、「究極のローカルはグローバルになりうる」という揺るぎない熱い思いを持って島根を舞台にした映画制作に取り組み、全国・世界に向けて発信している。

日時

令和元年 12月4日（水） 10:40~12:10

場所

島根県立大学松江キャンパス 大講義室

お問い合わせ

0852-26-5525（代表）

★入場無料・事前申し込み不要ですが、学生のための講演につき、学生優先でのご入場となりますことを予めご了承ください。